(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3612658号
(P3612658)
(45)発行日　平成17年1月19日(2005.1.19)　(24)登録日　平成16年11月5日(2004.11.5)

(51)Int.Cl.[7]	F I	
D04D 7/00	D04D 7/00	
B44C 1/28	B44C 1/28	B
B68G 13/02	B68G 13/02	

請求項の数 4　(全 10 頁)

(21)出願番号　特願平9-86228
(22)出願日　平成9年4月4日(1997.4.4)
(65)公開番号　特開平10-277279
(43)公開日　平成10年10月20日(1998.10.20)
審査請求日　平成13年9月25日(2001.9.25)

(73)特許権者　597047347
村木　幸代
松戸市常盤平１－２６－１－５１６
(74)代理人　100080621
弁理士　矢野　寿一郎
(72)発明者　村木　幸代
松戸市常盤平１－２６－１－５１６

審査官　佐藤　健史

(56)参考文献　実開昭５７－１７８５２４（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５７－０３９９９０（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
D04D1/00～11/00、B44C1/28、B68G 13/02～13/04

(54)【発明の名称】リバーシブルパッチワークキルト

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
円形又は角型の土台布を、表側へ向けて折り曲げて、内部にドミット芯と当て布を入れて縫い合わせることにより、単位モチーフを構成し、該単位モチーフを連続的に縫い合わせて繋ぐことにより、表裏の模様を構成するリバーシブルパッチワークキルトにおいて、土台布又は当て布の両方又は一方を、複数の模様の異なる布を縫い合わせることにより構成し、単位モチーフのデザインを多様化したことを特徴とするリバーシブルパッチワークキルト。
【請求項２】
請求項１記載の単位モチーフの外形を、四角形としたことを特徴とするリバーシブルパッチワークキルト。
【請求項３】
請求項１記載の単位モチーフの外形を三角形としたことを特徴とするリバーシブルパッチワークキルト。
【請求項４】
請求項１記載の単位モチーフの外形を多角形としたことを特徴とするリバーシブルパッチワークキルト。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】

本発明は、ハギレを一定の円形または角型に切断した後に、これを土台布と当て布に構成し、この中にドミット芯を封入した状態で縫い合わせて、単位モチーフを構成し、この単位モチーフを連続的に繋ぎ合わせることにより構成するリバーシブルパッチワークキルトに関する。

【０００２】

【従来の技術】

従来、リバーシブルパッチワークキルトに関する技術については、同一出願人の、実開昭５７－１７８５２４号公報や、実開昭５７－３９９９０号公報によって公知の技術となっている。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

該従来技術においては、単位モチーフを縫い合わせて連続的に繋ぎ、リバーシブルパッチワークキルトを構成するという点では同じであるが、土台布や当て布が単一のハギレにより構成されている為に、単位モチーフのデザインの多様化を得ることが出来ず、出来上がったリバーシブルパッチワークキルトも、複雑なイメージを出すことが困難だったのである。

本発明においては、リバーシブルパッチワークキルトを構成する単位モチーフ自体に多様なイメージを具備させる為に、単位モチーフを構成する土台布や当て布それ自体を、多様なハギレの繋ぎ合わせにより構成したものである。

【０００４】

【課題を解決するための手段】

本発明の解決しようとする課題は以上の如くであり、次に該課題を解決するための手段を説明する。

請求項１においては、円形又は角型の土台布を、表側へ向けて折り曲げて、内部にドミット芯と当て布を入れて縫い合わせることにより、単位モチーフを構成し、該単位モチーフを連続的に縫い合わせて繋ぐことにより、表裏の模様を構成するリバーシブルパッチワークキルトにおいて、土台布又は当て布の両方又は一方を、複数の模様の異なる布を縫い合わせることにより構成し、単位モチーフのデザインを多様化したものである。

請求項２においては、請求項１記載の単位モチーフの外形を、四角形としたもである。

請求項３において請求項１記載の単位モチーフの外形を三角形としたものである。

請求項４においては、請求項１記載の単位モチーフの外形を多角形としたものである。

【０００５】

【発明の実施の形態】

次に本発明の実施の形態を説明する。

図１は本発明のリバーシブルパッチワークキルトの表面図、図２は外形が四角形の単位モチーフの土台布１を２枚の模様の異なるハギレにより構成した実施例を示す図面、図３は外形が四角形の単位モチーフの土台布１を５枚のハギレにより縫い合わせて構成した実施例を示す図面、図４は円形の土台布１から外形が四角形の単位モチーフを構成し、該円形の土台布１は５枚の模様の異なる布を縫い合わせて構成した実施例を示す図面、図５は同じく円形の土台布１において、土台布１を縦に３分割して模様の異なる布を縫い合わせて構成した外形が四角形の単位モチーフの実施例を示す図面、図６は四角形の土台布１に対して、当て布２を斜め方向に分断して、１７枚の模様の異なる布により当て布２を構成した実施例を示す図面、図７は円形の土台布１とドミット芯により構成し、当て布２を用いないで菱形の単位モチーフを構成する場合に、円形の土台布１を４分の１だけ模様の異なる布で構成した実施例を示す図面、図８は円形の土台布１とドミット芯により構成して、当て布２を使用せずに外形三角形の単位モチーフを構成する場合の、円形の土台布１を分断して模様の異なる布により構成した実施例を示す図面である。

【０００６】

図９は円形の土台布１から六角形の単位モチーフを構成する場合において、六角形の当て布２を３枚の模様の異なる布により構成した実施例を示す図面、図１０は円形の土台布１

から六角形の単位モチーフを構成する場合に土台布１も当て布２も何方も模様の異なる布を縫い合わせて構成した実施例を示す図面、図１１は円形の土台布１から、八角形の単位モチーフを構成する場合に当て布２を８枚の模様の異なる布を縫い合わせて構成した実施例を示す図面、図１２～図１６は円形の土台布１と四角形の当て布２から四角形の単位モチーフを構成する場合に、土台布１又は当て布２又は両方を模様の異なる布で縫い合わせて構成する場合の典型的な実施例を示す図面である。

【０００７】

本来、パッチワークとは、三角形・四角形・菱形や不定型等の２枚以上の布を、平面的に繋ぎ合わせて、或いは縫い合わせて作るものである。

ハギレを唯単に繋ぎ合わせてパッチワークキルトとした技術は、一昔前のことであり、布の色彩や模様等の種類が豊富な昨今では、それぞれの布の配置や繋ぎ合わせ型により、種々のイメージを発揮させるアートとして捉える傾向にあるのである。

故に、単位モチーフのデザイン性の多様化が要求されるようになってきたのである。

【０００８】

通常のパッチワークキルトの場合には、表布のみをハギレの縫い合わせにより構成し、これに広い裏布を当てて、この間にドミット芯を広くいれ、表布と裏布の間を縫って、縫い目模様を入れることにより構成している。

これに対して、本発明のリバーシブルパッチワークキルトは、一つ一つの単位モチーフを多数組作り、これを連結して１枚のパッチワークキルトとするものであり、単位モチーフ毎に土台布１と当て布２が存在するので、裏面である土台布１にも模様が発生することとなり、これを縫い合わせ連結すると、表裏共に模様の異なるデザイン性の高いリバーシブルパッチワークキルトとすることが出来るのである。

【０００９】

このように、単位モチーフを繋ぎ合わせて構成するリバーシブルパッチワークキルトにおいて、従来の技術においては、土台布も当て布も１枚の布により構成していたのであるが、本発明においては、更にイメージ性を向上し、デザイン性を高める為に、土台布１や当て布２又は両方を分断して模様の異なる布を縫い合わせることにより構成したものである。

【００１０】

図１においては、単位モチーフＭを３０８枚縫い合わせて、１枚のリバーシブルパッチワークキルトとした構成の表面が図示されている。同様に裏面においても、土台布１の模様が現れているのであり、裏面を使用することも可能となっている。

図２においては、土台布１が正方形で、当て布２も正方形で、出来上がった単位モチーフＭが正方形の実施例を図示している。そして、土台布１は、隅の部分を一か所だけ分断して模様の異なる布を縫い合わせて構成している。この土台布１の四辺を表側に折り曲げて、その内部にドミット芯３を入れて、次に当て布２を当て、大きな縫い目模様で縫い合わせて、１枚の単位モチーフＭを構成するのである。

このように、一隅部を模様の異なる布とすることにより、裏面には、一隅に三角形の模様の異なる部分ができ、表面においては、矢羽根調の模様が一隅に出来るのである。

【００１１】

図３においては、土台布１の四隅を円弧状に切り取って、該部分に模様の異なる布を４枚当てて縫い合わせている。これにドミット芯３と当て布２を当てて、縫い目模様に縫い合わせることにより、裏面には四隅に４分の１円弧状の模様ができ、表面には、四隅に略ふたえかぎ状の模様で浮き上がるのである。

図４においては、土台布１を円形に構成し、４等分の外周に円弧状の切込み分断部を設けて、ここに模様の異なる布を縫い合わせている。これに対して、当て布２は、四角形であり、表面には、土台布１を表に折り曲げた四つの円弧面ができ、この隅部に模様の異なる布の部分が現れるのである。裏面には、四隅に４分の１円弧ができる。

【００１２】

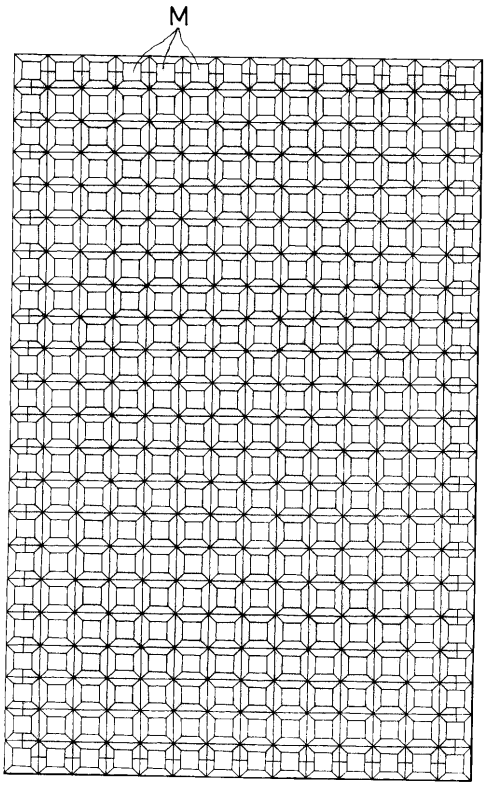
図５においては、円形の土台布１を縦に３分割、又は２分割し、それぞれを模様の異なる

布で縫い合わせて構成している。このように構成することにより、外形四角形の単位モチーフＭの表にで４つの円弧部分が色違いとなるのである。裏面にはこの縦に分断した模様が現れる。
図６においては、土台布１は四角形に構成し、当て布２も四角形に構成し、両方の土台布１と当て布２の四角形の大きさは相違させているので、この頂点を９０度ずらせて、土台布１の頂点が当て布２の頂点の中間に来るように折り曲げている。当て布２の方は、斜め方向に１４に分断して模様の異なる布を縫い合わせている。
このように、当て布２を多数の短冊に分断して模様の異なる布を縫い合わせることよっても構成できるのである。
【００１３】
図７においては、当て布２を用いずに、円形の土台布１を表側に大きく折り曲げて、直接に縫い目模様に縫い合わせることにより、菱形の単位モチーフＭを構成している。ドミット芯３を土台布１に包み込むように構成している。
図７の実施例においては、円形の土台布１の４分の１の部分を模様の異なる布で縫い合わせて構成している。
これにより、上段に示す如く、表面と裏面に独特の模様デザインを施すことが可能である。
図８においては、円形の土台布１のみで、当て布２を用いずに、３角形の単位モチーフＭを構成している。ドミット芯３を土台布１により包含する点は同じである。該実施例において、円形の土台布１の３分の１又は３分の２を模様の異なる布を縫い合わせて構成している。
また別に小さな円形の当て布２を３分割したものを、表面の中心に縫い合わせて複雑なイメージを構成している。２通りの３角形の単位モチーフＭを繋ぎ合わせることにより、図８の上部に示した如く、表面と裏面にデザイン性の高い模様を構成したリバーシブルパッチワークキルトとすることができる。
【００１４】
図９においては、円形の土台布１と６角形の当て布２から、外形が六角形の単位モチーフＭを構成している。該当て布２は３枚に分断して模様の異なる布を縫い合わせて構成している。これらの六角形の単位モチーフＭを縫い合わせて、上段の図面に示す如く、表面と裏面のことなる模様のリバーシブルパッチワークキルトとすることができる。
図１０においては、円形の土台布１の方を２分して模様の異なる布を縫い合わせして構成している。また、六角形の当て布２の方も６等分して模様の異なる布を縫い合わせて構成している。
これにより、上段に示す如く、表面と裏面に独特の模様デザインを施すことが可能である。
【００１５】
図１１においては、円形の土台布１と、八角形の当て布２から８角形の単位モチーフＭを構成している。八角形の当て布２おいては、８枚に等分して模様の異なる布を縫い合わせて構成している。
これにより、上段に示す如く、表面と裏面に独特の模様デザインを施すことが可能である。
【００１６】
このように、土台布１又は当て布２または両方を、模様の異なる布を縫い合わせて単位モチーフＭとすることにより、様々なイメージの単位モチーフＭを作り上げることが出来るのであるが、図１２から図１６においては、円形の土台布１と四角形の当て布２から、外形が四角形の単位モチーフＭを構成する場合において、可能性のある色々な模様の異なる布の配置を図示している。
図１２から図１６においては、代表的な土台布１と当て布２の組合せを図示したのみであり、その他に多数の模様の異なる布によるデザインが可能である。
【００１７】

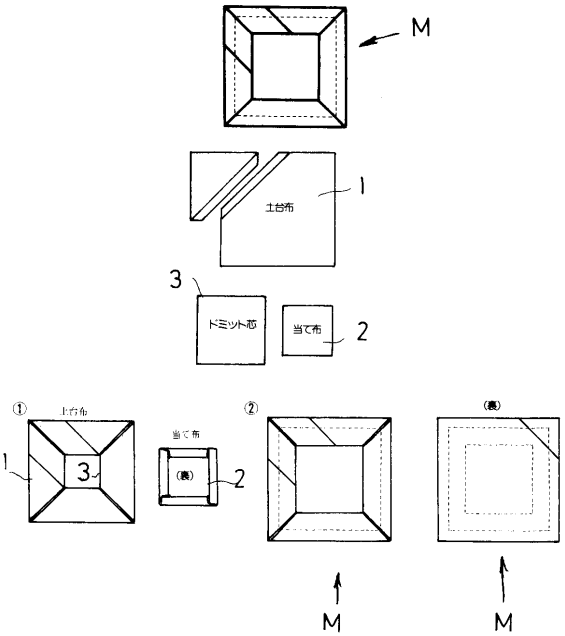
【発明の効果】
本発明は以上の如く構成したので、次のような効果を奏するのである。
第１に、土台布の分断の仕方や、当て布の分断の仕方は無数に考えられ、またそれぞれの模様の異なる布も無数に考えられるので、多様なデザインとイメージの構築が可能となり、より複雑な模様のリバーシブルパッチワークキルトを構成することが出来たのである。
第２に、１つ１つの単位モチーフの構成においても、縫い目模様の数が飛躍的に増加することとなり、縫い目模様によるデザイン性の向上を図ることが出来るのである。
第３に、土台布や当て布の切断と縫い合わせに時間が掛かることとなり、１枚のリバーシブルパッチワークキルトの仕上げに、従来の数倍の時間を有することとなり、趣味として仕上げに時間の掛かるレベルの高い工芸又はアートに高めることが出来たのである。
【図面の簡単な説明】
【図１】本発明のリバーシブルパッチワークキルトの表面図。
【図２】外形が四角形の単位モチーフの土台布１を２枚の模様の異なるハギレにより構成した実施例を示す図面。
【図３】外形が四角形の単位モチーフの土台布１を５枚のハギレにより縫い合わせて構成した実施例を示す図面。
【図４】円形の土台布１から外形が四角形の単位モチーフを構成し、該円形の土台布１は５枚の模様の異なる布を縫い合わせて構成した実施例を示す図面。
【図５】同じく円形の土台布１において、土台布１を縦に３分割して模様の異なる布を縫い合わせて構成した外形が四角形の単位モチーフの実施例を示す図面。
【図６】四角形の土台布１に対して、当て布２を斜め方向に分断して、１７枚の模様の異なる布により当て布２を構成した実施例を示す図面。
【図７】円形の土台布１とドミット芯により構成し、当て布２を用いないで菱形の単位モチーフを構成する場合に、円形の土台布１を４分の１だけ模様の異なる布で構成した実施例を示す図面。
【図８】円形の土台布１とドミット芯により構成して、当て布２を使用せずに外形三角形の単位モチーフを構成する場合の、円形の土台布１を分断して模様の異なる布により構成した実施例を示す図面。
【図９】円形の土台布１から六角形の単位モチーフを構成する場合において、六角形の当て布２を３枚の模様の異なる布により構成した実施例を示す図面。
【図１０】円形の土台布１から六角形の単位モチーフを構成する場合に土台布１も当て布２も何方も模様の異なる布を縫い合わせて構成した実施例を示す図面。
【図１１】円形の土台布１から、八角形の単位モチーフを構成する場合に当て布２を８枚の模様の異なる布を縫い合わせて構成した実施例を示す図面。
【図１２】円形の土台布１と四角形の当て布２から四角形の単位モチーフを構成する場合に、土台布１又は当て布２又は両方を模様の異なる布で縫い合わせて構成する場合の典型的な実施例を示す図面。
【図１３】円形の土台布１と四角形の当て布２から四角形の単位モチーフを構成する場合に、土台布１又は当て布２又は両方を模様の異なる布で縫い合わせて構成する場合の典型的な実施例を示す図面。
【図１４】円形の土台布１と四角形の当て布２から四角形の単位モチーフを構成する場合に、土台布１又は当て布２又は両方を模様の異なる布で縫い合わせて構成する場合の典型的な実施例を示す図面。
【図１５】円形の土台布１と四角形の当て布２から四角形の単位モチーフを構成する場合に、土台布１又は当て布２又は両方を模様の異なる布で縫い合わせて構成する場合の典型的な実施例を示す図面。
【図１６】円形の土台布１と四角形の当て布２から四角形の単位モチーフを構成する場合に、土台布１又は当て布２又は両方を模様の異なる布で縫い合わせて構成する場合の典型的な実施例を示す図面。
【符号の説明】

M　単位モチーフ
1　土台布
2　当て布
3　ドミット芯

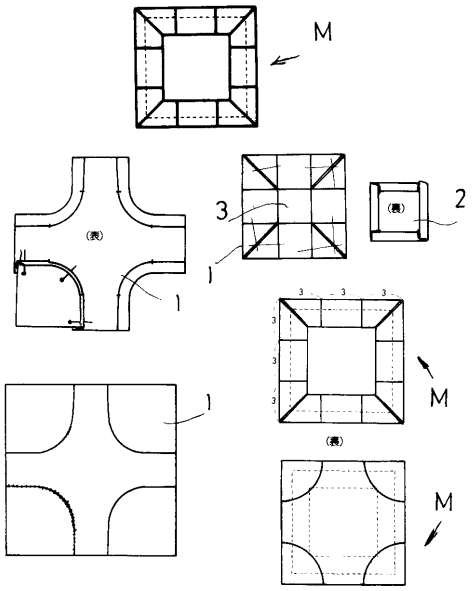
【図１】



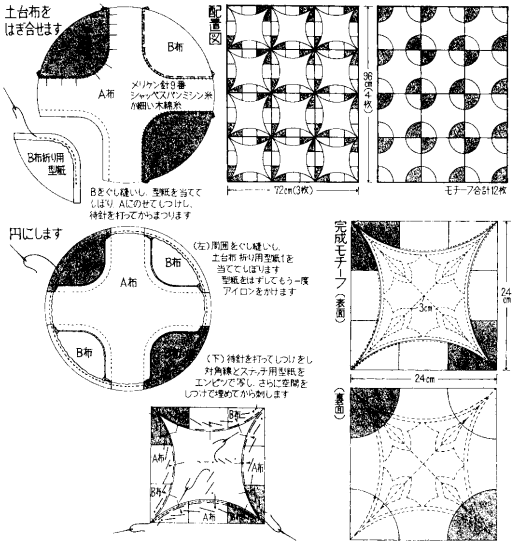
【図２】



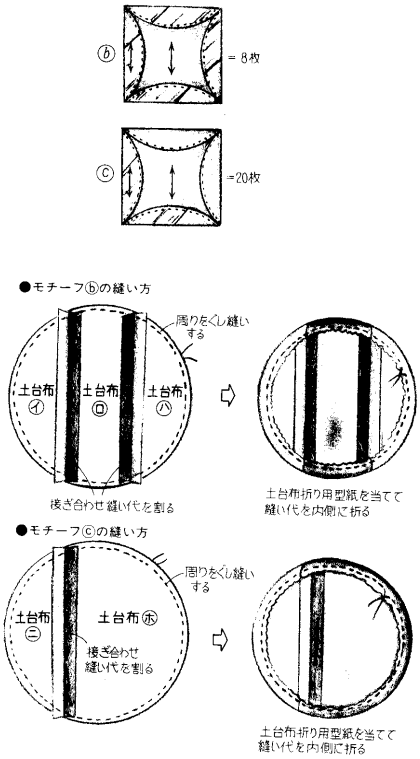
【図３】


M
(表)
1
3
2
(裏)
M
M

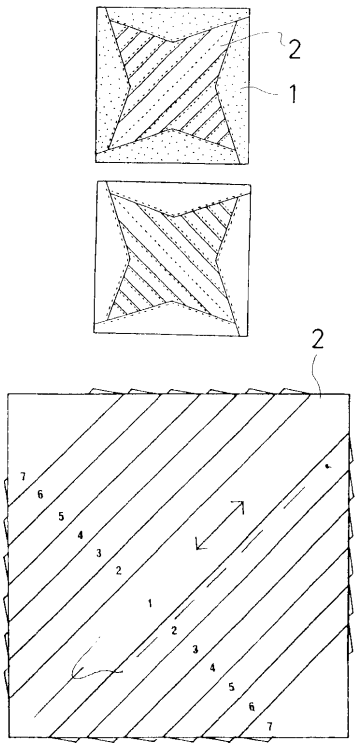
【図４】


土台布を
はぎ合せます
B布
A布
メリケン針8番
シャペスパンミシン糸
か細い木綿糸
B布折り用
型紙
Bをぐし縫いし、型紙を当てて
しぼり Aにのせてしつけし、
待針を打ってからまつります
配置図
36cm(4枚)
72cm(3枚)
モチーフ合計12枚
円にします
(左)周囲をぐし縫いし、
土台布折り用型紙Bを
当ててしぼります
型紙をはずしてもう一度
アイロンをかけます
(下)待針を打ってしつけをし
対角線とステッチ用型紙を
エンピツで写し、さらに空間を
しつけで埋めてから刺します
完成モチーフ
(表面)
24cm
3cm
24cm
(裏面)

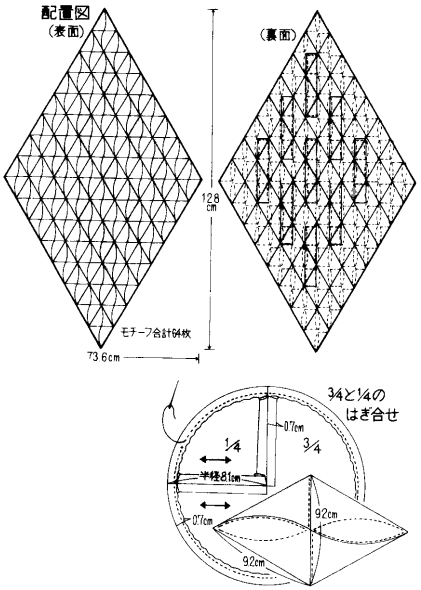
【図５】


ⓑ
=8枚
ⓒ
=20枚
●モチーフⓑの縫い方
周りをぐし縫い
する
土台布
(イ)
土台布
(ロ)
土台布
(ハ)
接ぎ合わせ縫い代を割る
土台布折り用型紙を当てて
縫い代を内側に折る
●モチーフⓒの縫い方
周りをぐし縫い
する
土台布
(ニ)
土台布(ホ)
接ぎ合わせ
縫い代を割る
土台布折り用型紙を当てて
縫い代を内側に折る

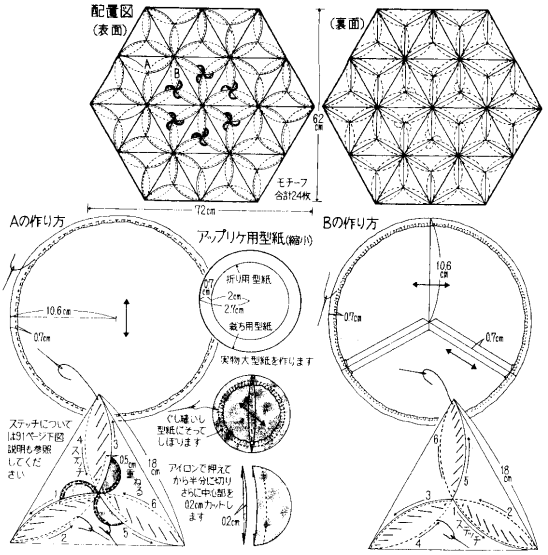
【図６】


2
1
2
7
6
5
4
3
2
1
2
3
4
5
6
7

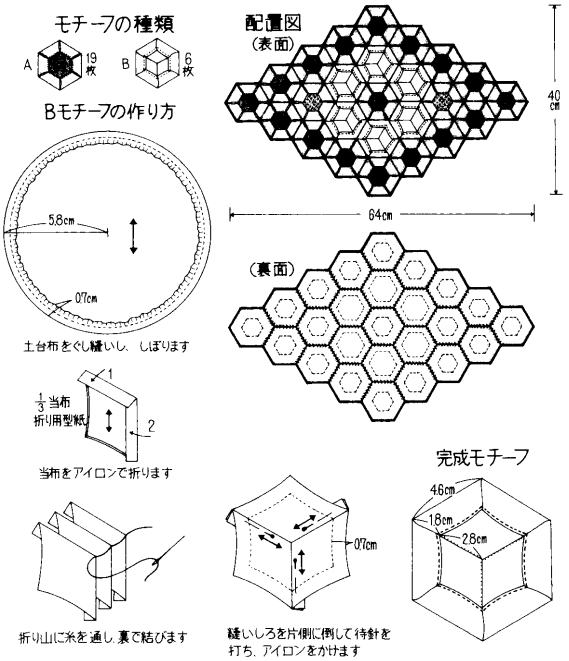
【図７】


配置図
(表面)
(裏面)
12.8cm
モチーフ合計64枚
73.6cm
¾と¼の
はぎ合せ
¼
¾
0.7cm
半径8.1cm
9.2cm
0.7cm
9.2cm

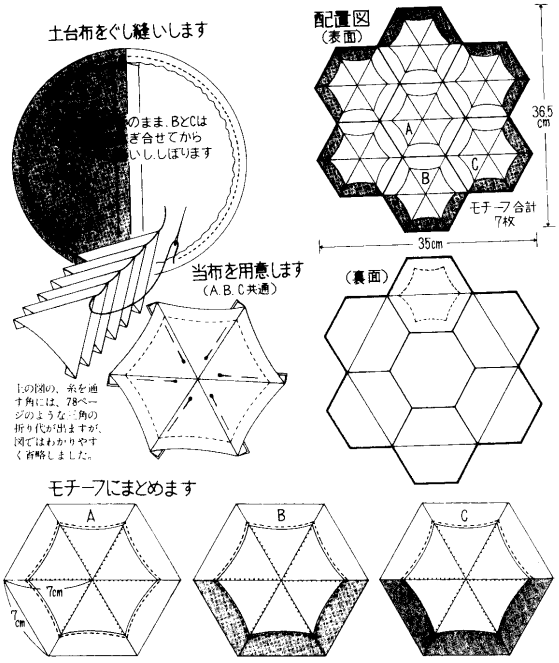
【図８】


配置図
(表面)
(裏面)
モチーフ
合計124枚
12cm
Aの作り方
アップリケ用型紙(縮小)
折り用型紙
2cm
2.1cm
縫い用型紙
実物大型紙を作ります
10.6cm
0.7cm
ぐし縫いし
型紙にそって
しぼります
ステッチについて
は491ページ下図
説明も参照
してくだ
さい
アイロンで押えて
から半分に切り
さらに中心部を
0.2cmカットし
ます
0.2cm
1.8cm
Bの作り方
10.6
cm
0.7cm
0.7cm
1.8
cm

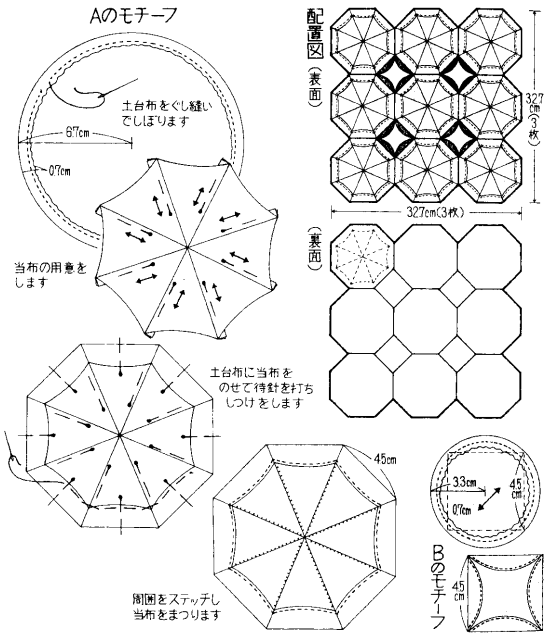
【図９】


モチーフの種類
A
19
枚
B
6
枚
Bモチーフの作り方
5.8cm
0.7cm
土台布をぐし縫いし、しぼります
1
⅓当布
折り用型紙
2
当布をアイロンで折ります
折り山に糸を通し、裏で結びます
配置図
(表面)
40
cm
64cm
(裏面)
0.7cm
縫いしろを片側に倒して待針を
打ち、アイロンをかけます
完成モチーフ
4.6cm
1.8cm
2.8cm

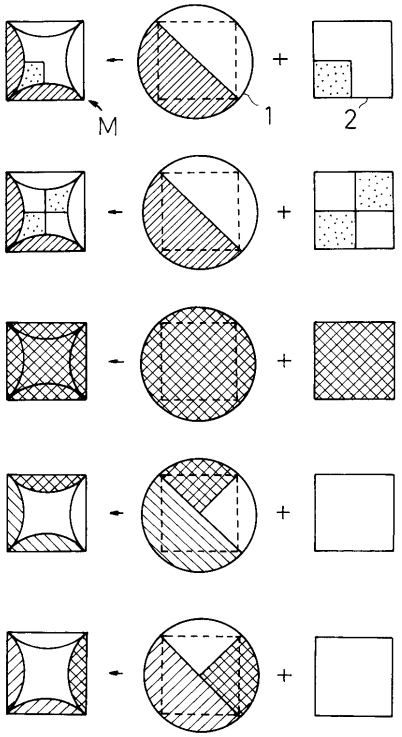
【図１０】


土台布をぐし縫いします
のまま、BとCは
ぎ合せてから
いし、しぼります
当布を用意します
(A、B、C共通)
上の図の、糸を通
す角には、78ページ
のような三角の
折り代が出ますが、
図ではわかりやす
く省略しました。
配置図
(表面)
A
B
C
36.5
cm
モチーフ合計
7枚
35cm
(裏面)
モチーフにまとめます
A
B
C
7cm
7cm

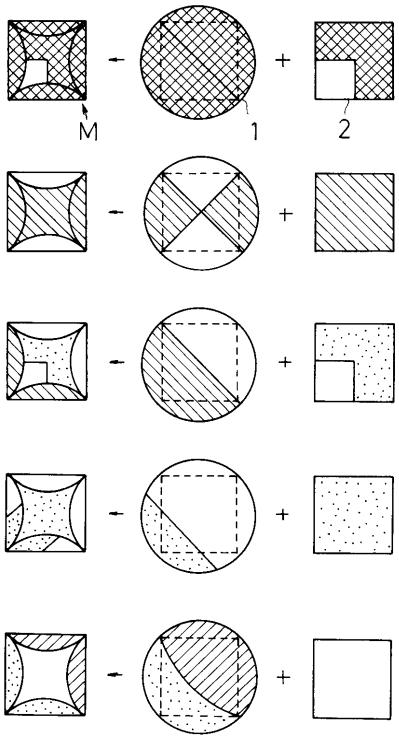
【図１１】



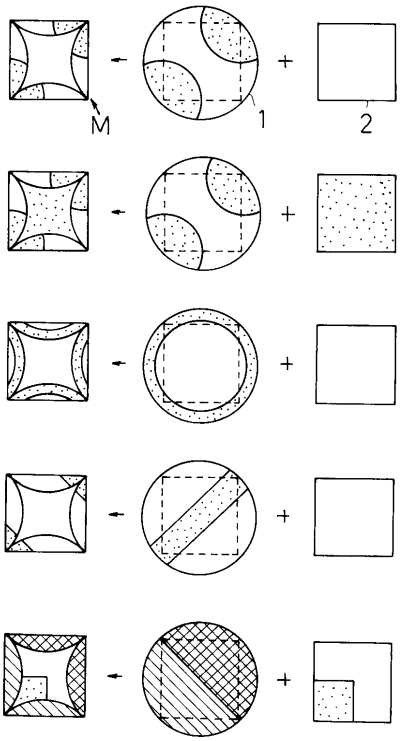
【図１２】



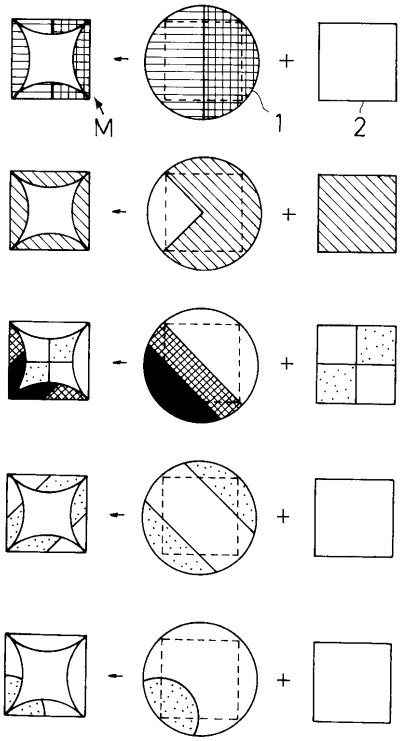
【図１３】



【図１４】



【図１５】



【図１６】

